

豊橋市美術博物館友の会だより-2010年-夏号

Vol. 76
FU風伯HAKU
Summer 2010



友の会のあり方と今後について考える

「豊橋市美術博物館友の会の方針と行動」を考えるシリーズ最終回は、皆さんからのアンケートで構成しました。612名の会員から85通の回答をいただき、回答率13.9%です。これまでは7～8通の回答しかなく、会員の反応を感じ取れないという不安がありました。つまり回答率が一割以上ないとアンケートの意味がない、と心配していましたが、予想以上に多くの方にご回答いただきました。今回のアンケート結果と真剣に取り組み、今後の方針と行動に反映させていきます。

1 友の会に入会しての感想はいかがですか？

とても満足している	13人 (15%)
満足している	54人 (64%)
普通	17人 (20%)
後悔している	0人 (0%)
無回答	1人 (1%)

「とても満足」「満足」の合計が79%を占め、予想以上の好結果でした。「後悔している」が0%なのにも安心しました。会員になったことで美術が、そして美術博物館が生活の中で身近になったこと、そして「風伯」やイベントなどを通じて美術への理解を深め、美術が生活の中の大切な柱になってきたという感想が目立ちます。

【会員の声】

- ・主人と二人で美術博物館に行けてうれしいです。つかの間のわくわくするデートの時間です。豊橋公園を歩き、美術博物館で心に潤いを。そしてコーヒータイム！なんとすばらしい時間！
- ・入会以前から美術への関心は高いつもりでしたが、入会してからは、幅広い美術が身近な存在になりました。また美術への理解を深めるチャンスが多くなったと思います。
- ・いろいろな情報と機会に恵まれて、美術というものが生活の中の大切な柱となって来た。
- ・企画展に入場できること。講演会に参加できること。「風伯」を読めること。これが一番。

2 友の会の研修旅行に参加されたことはありますか？

ある→楽しかった	35人 (41%)
普通	2人 (2%)
楽しくなかった	0人 (0%)
ない→これから参加したい	25人 (29%)
参加したくない又は参加できない	19人 (22%)

研修旅行に参加した人は95%の人が楽しかったと回答。ただし費用の面で高額、との指摘もありました。料理と同じで、安くて美味いが理想でも、そのバランスは難しいところです。参加していない人の57%が「これから参加したい」と回答。

【会員の声】

- ・吟味して研修先を企画していただいているので満足度が大きい。美術や美術館を通して会員同士が繋がっていることを実感できる良さがあります。研修旅行中コミュニケーションも深まりとても楽しい。
- ・行先がだんだん遠くなることや宿泊先が一流で考えこんでしまう。安全、安心上のことはよくわかりますが、コース、宿泊先など一般庶民の目線で立案してほしい。
- ・遠方ではなく、近隣の美術館などを見学するような計画を立ててほしい。

3 友の会コンサートを聴きに行かれたことはありますか？

ある→楽しかった	38人 (45%)
普通	7人 (8%)
楽しくなかった	0人 (0%)

参加された84%の人が「楽しかった」と回答。これは音楽だけでなく美術の貴重な楽しみ方です。会員限定の和やかな空気もまた魅力のうちようです。

【会員の声】

- ・野外でのコンサートは、夕闇の中での幻想的な雰囲気感激しました。
- ・ロビーコンサートはとても楽しい。演奏者との距離が近く、親しみを感じる。ステキな雰囲気の中で楽しめる。上村松園展のときの「一弦の琴」は、特によかった。
- ・いつもの美術博物館の中で生の音楽を聴くことができとてもオシャレで素敵でした。特に企画展や絵画作品に関連付けたコンサートは美術館ならではの素晴らしいことですね。

「豊橋市美術博物館友の会の方針と行動」 その4

- ・テルミンは、無茶苦茶楽しかった。少人数で、雰囲気も良かった。
- ・昼間3時頃に終わるようならば、参加したい。

4 「風伯」をどんな風に読んでみえますか？

隅から隅まで読む	……………45人 (51%)
面白そうなところを読む	……………43人 (48%)
読まない	……………1人 (1%)

「隅から隅まで読む」が51%とわかり、編集部に変更して緊張感が走りました。表紙に関心をお持ちの方が多いようです。表紙はその時期の展覧会の作品から選ばれますが、学芸員や関係者の間では、今度はどの絵が表紙になるのか予想が飛び交います。

【会員の声】

- ・表紙の絵が素晴らしく、わくわくして中味を見ます。そして、『風伯』を応接間においておくと、表紙を見て子どもたちが興味を持ち、説明しなくても進んで読み出します。この間は娘の旦那様が私の知らないうちに『風伯』を見て、ある日突然、美術博物館に夫婦で行ったと聞かされ、おどろきました。
- ・『風伯』が届くと、まず今回の表紙の絵は？と楽しみです。絵に関して全く一年生の私にとって、書かれている事が勉強になるので、一字一句全て読みます。『風伯』を読めば次回のスケジュールも把握でき、収蔵品の紹介もあり、私の大切な教科書です。
- ・楽しく読ませていただいている。最近随分内容が変わり、興味深くなりました。
- ・客間にも置いて、県外からの来客の方々に豊橋を紹介するものの一つとしてご覧いただいている。

5 「風伯」の内容はいかがですか？

とてもよい	……………21人 (25%)
よい	……………56人 (66%)
どちらでもない	……………8人 (9%)
あまりよくない	……………0人 (0%)

91%の人が「とてもよい」「よい」と評価しました。編集部が特集で求めてきた内容を評価していただきました。

【会員の声】

- ・美術博物館のあり方を常に追求しており、真面目な態度が感じとれます。
- ・『風伯』75号の「高畑郁子先生をたずねて」は素敵でした。自然な文章で心温まる内容で、あっという間に読んでしまいました。高畑先生のやさしい笑顔そのままのお人柄、特にご主人を芸術家として伸ばしたい、夫婦というより「同志」…きっとご主人さまは幸せだったと…そして高畑先生はどなたとも仲良くできる方だと思いました。とてもとてもしあわせな気分になる内容でした。
- ・館からの発信と友の会からの発信が両輪となって、内容をより深く充実させていると思います。シリーズ企画が目玉となり読み応えがあります。
- ・社内報とか機関誌の面白くない典型が「良かった、良かった」の記事が多いものといわれていますが、最近の『風伯』は少し変わっていて、会の実状とかその対策、今後の方針などもみられ、問題を共有できる様に思います。
- ・内容に幅が出てきた。表紙が斬新であか抜けている。読みやすいレイアウトなので親しみが持てる。
- ・定価200円とありますが、会員でなければお金を払って買いたいとは思えない。

6 「風伯」の特集「美術博物館友の会の方針と行動」の内容はいかがでしたか？

とてもよい	……………18人 (24%)
よい	……………56人 (74%)
どちらでもない	……………2人 (2%)
あまりよくない	……………0人 (0%)

「とてもよい」との回答が24%あったことに注目。豊橋市美術博物館はどうあったらいいのか、友の会の役割と存在価値を考えて来ました。編集部の思いをきちんと受け止めていただき有り難く思っています。

【会員の声】

- ・コンサートの企画趣旨や開催までのプロセスなどがわかると、役員の皆様のご苦勞がしのべれます。そういう面を出すことによって、会員の方々も、「協力したい」という思いが自然と湧いてくると思います。
- ・研修旅行の舞台裏を知ることができた。皆さんの力があってこそ、参加して楽しく過ごせることがわかりま

した。今までに訪れた美術館や、今後の予定もわかり、更に期待が大きくなりました。

- ・友の会の会員拡大を目指して企画を練り、しだいに充実してきた活動の歩みを知ることができた。コンサートも研修旅行も友の会の大きな魅力。次に何ができるかを考える上でも重要な内容の特集でした。
- ・「会員拡大を考える」の記事を読んで、私たちの友の会の発展のために、もう少し積極的に周りを勧誘しなくてはと思いました。
- ・担当の方の熱意が感じられ、良くしようという姿勢がうれしい。豊橋もたいしたものだと思います。
- ・現在の美術博物館は、確かに一般のギャラリーとしてもよく利用されていますが、本当にこれだけでいいのか…。空調・照明・導線、どれをとっても不十分で、いい作品を展示することができない。現状をもっと明らかにしていくべきで、そうした意味からも、特集は良かったです。
- ・美術に特定する限り、会員増を期待してもムリだと思います。他館の友の会の実状を調べて、理事の方々だけでも交流されて、その報告を「風伯」に掲載して下さい。
- ・今まで郵便が多い時は、「風伯」を開封するのは後回しになっていたが、最近はず「風伯」の封を切り読むようにしている。そんな楽しみが出てきた。
- ・意外と本音が出ていたから(よかった)。

7 美術博物館に年間何回出かけられていますか

0回	1人(1%)
1～6回	36人(42%)
7～10回	22人(26%)
11～20回	20人(24%)
21回以上	5人(6%)
無回答	1人(1%)

票が分かれました。企画展だけだと年に数回、それ以外の目的や楽しみ方を持っているかどうかで回数も変わってくるようです。

【会員の声】

- ・美術博物館の格を上げるような企画を望みます。わざわざ見に行きたい企画が非常に少ない。市民ギャラリーとして使う展覧会は、別の場所です！
- ・駐車場もあるし、市電でも行けるし、吉田城があって、公

園もあって、豊川・自然…と、とてもすばらしい立地にあると思います。

- ・散歩の途中などに気軽に寄っています。いろいろなグループの展示作品を見るのが楽しみです。また、いろいろな案内を見るのも楽しみです。コーヒーを飲むのも楽しみです。
- ・心の洗濯に出かけます。あらためて、いい場所にあると感じます。

8 友の会に、今後どのようなことを希望されますか

多くの方から沢山の希望を頂きました。それは友の会の可能性への期待と、重く受け止めています。

【会員の声】

- ・東三河の美とは何か。美意識とは何かを追求していただきたい。中村正義さん等の作品を拝見すると、当地方の作家の特徴は、心の奥底に潜む情念・心情をストレートに表現することではないか。三河人は一見おとなしく自己主張も少ないが、心の奥底には熱いものを持っている。センスは良くないが素朴さがある。美術博物館再生や街づくりでも東三河の美意識を明らかにすることで方向性が見えてくると思う。
- ・会員同士が親しくなれるような、楽しい企画(気楽な)があれば、初心者の方も少しずつ勉強できると思います。若い人たちを巻き込む企画をもっとお願いします。
- ・作家を招いての講演会やセミナーを開催し、豊橋以外からの人々、特に若い世代を呼び込めるような魅力ある催しを増やしてほしい。絵画のみではなく、博物館らしいものも展示してほしい。
- ・活動の多様化を期待します。例えば、美術博物館事業外のワークショップとして、芸術家(または大学教授)との交流の場を企画する(制作技術etc、対象:子供or大人、場所:美博以外も可)。
- ・「企画が魅力的でぜひ足を運びたい!」「友の会に入ると情報が早くキャッチできるからぜひ入りたい!」そんな気持ちになるようにしたい。無料コンサートが友の会の魅力では情けない。逆にコンサートを有料にするくらいのすばらしいものにしてほしい。
- ・会員一人一人が美術博物館にどうかかわって何ができるか、能動的な意識(ボランティア)が持て、楽しめる会に育つと良いのですが…。

魅力ある友の会をめざして

会長 宮田 正人



会員の皆様、こんにちは。前年度より会長を拝命いたしました宮田正人です。昨秋の開館30周年記念シンポジウムではすでにご挨拶をさせていただきましたが、全会員の皆様にご挨拶申し上げますのは今回が初めてです。遅くなりましたが、どうぞよろしくお願いいたします。

豊橋市美術博物館は昭和54年(1979)に開館いたしました。「友の会」はそれから8年を経た昭和62年8月に設立され、今年24年目を迎えます。設立当時1,000名余の会員でしたが、昨年度は612名でした。この会員数は捉え方によって様々な解釈ができるかと思いますが、もっとも多くの方々に「友の会」の存在を知っていただき、後藤清司新館長と連携し、活気に満ちた会にしていきたいと思っています。

さて、この度のアンケートには85名という多くの会員の皆様からご回答をいただき感謝しています。ありがとうございました。ご回答の中には、「友の会」ではなく「美術博物館」への要望と思われるものもありましたが、「友の会」と「館」とがひとつであると感じていただいていることにむしろ喜びを感じました。「会員になったことで美術博物館が身近になった」と感じてくださっている方が多くホッとしている一方、色々なご要望に触れ、まだまだだと認識し身が引き締まります。前ページまでにアンケートの分析がされていますので、ここでは「友の会に、今後どのようなことを希望しますか」の問いに対する皆様からのご回答へ、私の気持ちを一部ではございますが記させていただきます。

ご回答の中に「会員同士が親しくなれるような企画を」とありました。「友の会」の会則には、「この会は、歴史・美術に関心を持つ人たちの集まりで、豊橋市美術博物館事業に協力し、会員の教養を高めるとともに相互の親睦を深め、文化の向上を図ることを目的とする」とあります。平たく言えば友の会会員は「館」のサポーターであり、「サポーター同士の交流をしましょう。そして文化の向上を図りましょう」と、言っていると思います。これまでも会員が集まる機会は、総会・土曜サロン(勉強会等)・研修旅行・コンサート・シンポジウム・ボランティア活動等があり、会員の方の表情は「風伯」の「友から友へ」のコーナーで知ることができたものの、研修旅行とボランティア以外の場では会員同士の交流が図りにくかったかと思います。今後はこれらの運営を再考するとともに何か新しい形の交流の場を検討したいと思っています。

また、「若者の利用率を上げるための工夫を」とありました。これには、今年度から「高校生会員1,500円」を見直し、「学生会員1,000円」として会費を下げるとともに、高校・大学・専門学校生を対象を拡げました。各学校へ積極的に案内し、多くの若者に利用していただこうと計画しています。ここにも「賛助会員・特別会員」の皆様のご支援を活かしていきたいと考えています。

また一方、ご高齢の会員の皆様にも魅力を感じていただける会にしたいと思っています。たとえば設立当時46歳であった方は現在70歳になります。70歳になりますと、市の制度で有料企画展を無料で何度でも観覧できます。それでも「風伯会員(70歳以上の個人)」は前年度68名いらっしゃいます。また、あえてこれまでと同じ正会員でいてくださる方もいらっしゃいます。無料で観覧できるという特典意外の何かを感じ、入会されている会員の皆様の気持ちを考えますと、「友の会」の活動は本当に魅力あるものにならなければならないと思っています。

開館30周年記念シンポジウムで真野響子さんは、「芸術作品を見る目を養うこと、鑑賞する力をつけること」が大切だと言われました。歌舞伎や能の世界に「見巧者(みこうしゃ)」という言葉があります。「目の肥えた人」のことを言いますが、この人々が芸と芸人を育ててきました。会員の皆様「友の会」の活動を通じ自ら楽しめる「見巧者」となることは、この地方の文化が向上し、やがて多くの芸術家が育つことにも繋がると思います。

私たちの夢である新美術博物館の誕生も、そんな中から実現すること信じています。

美術博物館の展覧会

松井守男回顧展 ～コルシカに生き、光を描く～

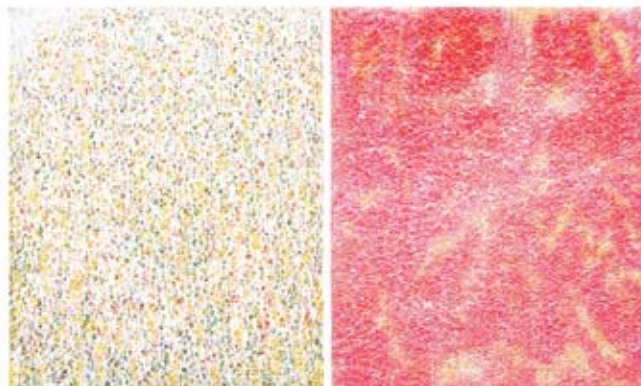
7月17日[土]～8月22日[日] 月曜休館(ただし7/19は開館、翌7/20日は休館・会期中金曜日は午後8時まで夜間開館)



豊橋市出身の松井守男は、武蔵野美術大学造形学部油絵学科を卒業した後、フランスに渡り、パリを拠点に制作活動をはじめました。面相筆による細かなタッチを大画面に重ねて描く作風を確立し、1997年のフェッシュ美術館(コルシカ・アジャクシオ)での個展開催を機に、翌年よりコルシカ島に居を移します。以後、地中海西部に位置するコルシカの豊かな自然をモチーフに制作を行い、2000年にはフランス政府より芸術文化勲章、2003年にレジオン・ドヌール勲章を贈られました。2005年に「愛・地球博」のフランス・ドイツ共同パビリオンの貴賓室で作品が展示されたほか、2008年にはシャネル・ネクサス・ホール(東京・銀座)や長崎の大浦天主堂など史跡で個展が開催されています。本展は「豊橋特別ふるさと大使」でもある松井守男の代表作によってその画業をたどるはじめての回顧展です。

■アーティスト・トーク

日時◎7/17(土)・8/7(土)いずれも午後2時～



「四季-春」(部分) 1987年

「胎」1989年



「自然」2004年

二川宿本陣資料館の展覧会

館蔵品展 ～浮世絵・絵図・刷り物に見る江戸の旅～

6月12日[土]～7月11日[日] 月曜休館



「東海道五十三次(行書版) 鞠子」歌川広重画

江戸時代になると街道が整備され、庶民にとって旅は身近なものとなりました。伊勢参宮に代表される社寺参詣の旅は、ひたすらに目的地をめざすものではなく、旅の途中で神社・仏閣を巡りながらのものでした。旅の楽しみは今も昔も変わらず、美しい風景をめぐることや美味しい地域の名物を食べることです。

この展覧会では、当館所蔵の浮世絵より旅人の様子や、江戸時代のガイドブック・ガイドマップ、土産物であった神社・仏閣の境内図などを紹介します。また、江戸時代の旅人が食べた名物料理を復元模型によって展示します。

会員特典を拡大！二川本陣の入館回数が増えます

今年度から二川宿本陣資料館へ無料入館できる回数を下記のとおり拡大します。企画展やイベントがいろいろ企画されていますので、みなさんぜひ足をお運びください。(会員証をご提示ください)

正会員・学生会員(本人のみ)→年間3回 / 特別会員→年間6名 / 賛助会員→年間15名

後藤清司新館長より



このたび4月1日付で館長を拝命しました後藤清司です。微力ではありますが、学芸員として30年の経験を踏まえ、美術博物館の発展に努める所存でありますので前館長同様ご指導・ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

金原宏行前館長には、特任館長にご就任いただきましたので、引き続き、高い視点から展覧会・資料収集についてご尽力いただきます。

昭和54年に開館した当館は、昨年30周年を迎えましたが、この間、中村正義・星野眞吾・平川敏夫など郷土ゆかりの画家作品

や吉田城や豊橋の歴史に関する資料等を収蔵・展示するほか国内外の名品を紹介する展覧会を開催し、延べ580万人以上の数多くの方々にご利用していただきました。

今年は豊橋出身でフランス・コルシカ島在住の松井守男さんの展覧会や、パリを描く画家として日本で最も人気の高いモーリス・ユトリロの展覧会を開催いたしますので、ご期待いただければと思います。

今後も、豊橋市を中心とした東三河における文化芸術施設の核としてという意気込みで、40周年・50周年に向けてがんばりたいと思いますので、友の会の皆様の更なる応援をお願いしたいと思います。

こんにちは よろしく！ この春、新たに美術博物館に加わったスタッフをご紹介します。



野口 尚(のぐち ひさし)

管理文化財グループ主査
趣味/ドライブ。最近では豊橋周辺のローカルスポットを探訪しています。最近行った所は、阿寺の七滝、龍潭寺。
ひと言/美術博物館を利用する方が、充実した時間を過ごしていただけるよう努めていきたいと思っています。



細田 樹里(ほそだ じゅり)

美術資料担当(学芸員)
趣味/旅行、山歩き、スポーツ観戦。
ひと言/松江出身です。色々な縁に導かれ、豊橋にきました。地元作家について、現在勉強中です。



高橋 利政(たかはし としまさ)

民俗資料収蔵室担当(非常勤)
趣味/読書(ミステリー)
ひと言/昔を懐かしむ年配の方や、先人の工夫を学ぶ子ども達のための、楽しい展示室を目指します。



久住 祐一郎(くすみ ゆういちろう)

歴史資料担当(学芸員・非常勤)
趣味/合唱、お城巡り。
ひと言/新潟出身です。文書(もんじょ)整理や史料集作成を担当します。大好きな古文書に囲まれて仕事ができる環境があります！



木村 聡(きむら さとし)

埋蔵文化財担当(非常勤)
趣味/旅行。バックパッカーで旅したインドやパキスタンが印象に残っています。
ひと言/滋賀出身です。文化財担当者として豊橋の新たな魅力を探していきたいと思っています。



加藤 幹樹(かとう もととき)

埋蔵文化財担当(非常勤)
趣味/釣り、遺跡探訪。
ひと言/津島出身です。技術、知識ともに未熟ではありますが、文化財を保護する立場の人間として仕事に尽力していきます。



山田 美文(やまだ よしふみ)

二川宿本陣資料館担当(非常勤)
趣味/散策(若い頃は山、今は街)、読書。
ひと言/本陣、旅籠屋、東海道。疾走する新幹線のぞみ号。二川の今と昔を探って、仕事に活かしたいと思っています。

●お世話になりました

井上三男さん(館長補佐)→国保年金課主幹/田中昌博さん(施設管理・庶務)→都市計画課/富田弘さん(民俗資料収蔵室)→松葉小学校/鈴木康夫さん(歴史資料)→退職/小林一弘さん(二川宿本陣資料館長)→退職/長崎千明さん(埋蔵文化財)→名古屋市博物館

収蔵品紹介

[貴妃賜浴]

中村岳陵 ● NAKAMURA, Gakuryo (1890-1969)

1927 (昭和27)年 絹本着彩、額装 168.2cm×265.1cm
平成21年度購入

第14回再興院展に出品された本作は白居易の長恨歌に「春寒賜浴華清池 温泉水滑洗凝脂」とある楊貴妃の湯浴みする場面を描いている。玄宗皇帝にその美貌を見初められた貴妃は華清の温泉宮に招かれ、はじめてその寵愛をうけたという。

額に花細(かでん/唐代に流行した女性の化粧)を施したヒロインの相貌は「鳥毛立女屏風」や唐三彩の美人俑などを髣髴させ、傍らの水瓶などの調度品や装束の文様にも正倉院御物などの古美術に取材した研鑽の成果がうかがえる。

岳陵はこの時期、大和絵などの古画の研究にいそしんでいたが、本作に対する抱負を「貴妃は表現上の借りもの、要は余り日本画の領域で取り扱わない裸婦というものと取り組んでみた」(昭和34年/美術グラフ)と語っており、古画の研究と裸婦表現を両立させ、新たな表現へ展開しようとする意欲がうかがえる。半裸の貴妃を取り巻く色彩は極力抑えられているが、床の文様や柱、壁を白描で表すことで、先の長恨歌にも詠われた肌の美しさを際立たせようとしているのだろう。また、傍らに立つ侍女のひとは貴妃が好んだと伝わる荔枝(レイシ)を盛った皿を持つなど、貴妃にまつわるエピソードも盛り込まれている。

戦後、当地方からは多くの若い日本画家が岳陵の主宰する画塾<蒼野社>に入門し、日本画の研鑽を積んでいた。



日展で審査員や理事をつとめていた岳陵は若い日本画家たちにとって指標であり、中村正義を筆頭に浅田蘇泉、畔柳赫、白井青淵、永井繁男、伊東隆雄らがその門を叩いている。すでに戦前より我妻碧宇・森緑翠がこの蒼野社に在籍しており、新文展や院展で活躍をはじめていた。

昭和36年に、碧宇・緑翠・正義が蒼野社を退き、師弟関係は解消する結果となったが、岳陵の存在は当地方の戦後日本画壇に大きな役割を果たしたといえる。このように強い結びつきをもつ岳陵の作品を当館では収集対象とし、すでに〈雙鶴〉〈流紋〉を収蔵している。

(豊橋市美術博物館学芸員 丸地加奈子)

*「新」収蔵品展にて、江戸初期の風俗画に学んだ岳陵の同時代の作品〈童女手毬図〉とともに6月20日まで展示。

編集後記

市制100周年記念事業での新美術館完成を楽しみにしておりましたが、不況のあおりで延期となり凄く残念に思います。近い将来、豊橋の新名所となるような魅力的な美術館が建設されることを願ってやみません。

話は変わりますが、数年前にメトロポリタン美術館で出会ったラ・トゥールの〈マグダラのマリア〉に、深い感銘を受けました。フラッシュ無しでの撮影はOKでしたので、カメラに収め帰国後友にみせたところ、小説『ダ・ヴィンチ・コード』を貸してくれました。感動も冷めやらぬまま、一気に読みました。一枚の絵との出会いから、絵画の背景、歴史、キリストへと興味が広がっていくことは大変嬉しいものです。これからもそんな“出会い”を愉しんでいきたいと思っています。

(金田順子)

【表紙作品】

中村岳陵〈貴妃賜浴〉(部分)

豊橋市美術博物館 友の会だより「風伯」第76号

編集・発行 豊橋市美術博物館友の会

会長 宮田正人

担当副会長 神野能生子

編集長 鈴木伊能勢

編集委員 福島陽子 金田順子

協力 豊橋市美術博物館

〒440-0801 豊橋市今橋町3-1 TEL.0532-51-2882

平成22年5月20日発行(5月・8月・11月・2月各20日発行)

平成10年3月17日 第3種郵便物認可 定価200円

※会員は会費に含まれます。※定価には消費税が含まれます。